

問 名古屋グランパスを受け入れたが、来場者数は想定内であったか。

教育長 キャンプ期間中で延べ1万人余の来場者があった。試合日の観客数は想定内であった。

問 受入体制は十分だったか。

教育長 チーム関係者にキャンプ地としての環境は十分であったと確認した。

問 観光地として発展させる可能性は見いだせたか。

教育長 来場者数を勘案しても、有望な観光資源になる。

問 受入地としての課題は何か。まちおこしの起爆剤としての要素は何と考えるか。

教育長 次の課題がある。

- ① 来客のための駐車場確保
- ② キャンプ受入の経験不足による段取不足
- ③ チームとの交渉の窓口の整備
- ④ 受け入れを活かすためのアクションプラン等々の作成と周知

キャンプ受け入れは有望な誘客機会である。この機会をまちおこしとして十分に活かすアクションプランが起爆剤になると考える。

問 今後の機会を考え、取組体制をどう展開していくか。

教育長 今回のプロジェクトチーム体制に、もう少し町民を巻き込む方法を検討する必要がある。

問 南風原物産展もキャンプ受入と同時に開催された。イオン南風原店と提携し、両会場間の巡回バスも導入された。効果はどうであったか。

副町長 巡回バスは、駐車場の確保や待ち時間、移動時間の面で、よい効果となった。

地域発信力の強化と観光を関連付ける事業のあり方は

答 スポーツツーリズムの振興に全庁的に取り組む



上原 喜代子 議員

問 滞在型ツアー等の計画も求められる。地域の発信力と独創的な本場の味の見せ方、パフォーマンスの必要性はないか。

副町長 町内の事業所や地域住民が観光に対する気持ちを一つにするよう働きかける。スポーツツーリズムの進行に全庁的に取り組む。

問 拠点産地認定の農産物に脚光を当てるためにもふるさと納税を推進できないか。

総務部長 ビジネスチャンスを展開し本町を発展させたい。ふるさと納税にもつなげていく。



名古屋グランパスによるサッカー教室